

ゆめ通信

★三大学合同夏合宿



★すずき川花火大会 写真・絵画コンテスト表彰式



★◎いただきます!! 銀座NAGANOで試食会



★ええじゃん栄村 栄村収穫祭へ参加



2 三大学合同の夏合宿開催

田園調布学園大学 (神奈川県) 共愛学園前橋国際大学 (群馬県) と学び交流

3 各賞受賞者紹介

4・5・6 学生プロジェクト活動紹介

7 第51回梓乃森祭報告

8 考房『ゆめ』みんなの掲示板

第4回あるぷすタウン開催案内 / スタッフボランティア募集 / 月刊イクジに学ぶ

地域づくり考房『ゆめ』キャラクター こう坊

考房『ゆめ』は社会貢献活動を行う学生を支援しています。地域の方からの「お願い」を松大生とともに創造しています!



三大学合同の夏合宿開催

テーマは **広げる** ～縦と横のつながりを深めよう～

妙高高原の国立青少年自然の家を会場に9月8日(金)、9日(土)の2日間『ゆめ』夏合宿を開催しました。今年で3回目の実施となりますが、今回初めて県外大学の仲間も参加して学びと交流を深めました。



受賞おめでとう

合宿企画を通して

初めての三大学合同合宿は、「広げる～縦と横のつながりを深めよう～」をテーマに企画しました。1日目に行う交流会・2日目に行う活動報告会とレクリエーションの内容を各プロジェクトの企画メンバーと一緒に考えました。私はレクリエーション担当だったのですが、このテーマにあったもので三大学が楽しめる内容がなかなか思い浮かばず苦戦しました。また、初めて企画メンバーをまとめる立場になり、自分が思っていたよりもまとめるということが、大変で上手くいかない時が多々ありました。当日も段取りが悪かったり反省点が多くあげられる合宿になりました。しかし、合宿を通して企画することの大変さとやりがいにも気づくことができました。来年の合宿は反省点を活かし、参加者が合宿に参加してよかったと思えるようなものにしたいです。

総合経営学部 総合経営学科 2年 百澤 琴乃



主なスケジュール

- 1日目
 - はじめての会
 - アドベンチャープログラム(グループ別)
 - 夕食
 - レクリエーション(県外大学企画)
 - 交流会
- 2日目
 - 中間活動報告会 発表と質疑応答
 - 田園調布学園大学 「こどもの町 ミニたまゆり」
 - 共愛学園前橋国際大学 「共愛 COCO」
 - 松本大学・松本大学松商短期大学部 プロジェクト活動(10件)
 - レクリエーション(松本大学企画)

三大学合宿から生まれたタテとヨコのつながり

「ありがとうね。また来年も会おう！」と後輩たちが他大学の学生に向かって最後の挨拶を交わしていたのは印象的です。一昨年から松本大学の皆様にはお世話になっていますが、大学も学年も活動地域も異なる今回の合同合宿は学生なりの、活動に対する考え方やアプローチが多様で聞いていて刺激的でした。多くの学びと新たな仲間、そして素敵な思い出を作ることができました。地域づくり考房『ゆめ』の方々

には、学生間の縦と横のつながりを深めるための内容を構成していただき本当にありがとうございます。

学生プロジェクトチームが持つ、地域に対する思いが<ゆめ>となり地域の方たちと協働していく<地域づくり>を見ていきたい、そして今後も各大学間の交流をし続けて欲しいと強く願います。

共愛学園前橋国際大学 国際社会学部 国際社会学科 4年 井野 明日香

来年もつながりを広げたい

今回の合宿には、企画メンバーとして参加しました。入学してからの活動でプロジェクト内のメンバーとはつながりができていましたが、他プロジェクトの様子はわかりませんでした。「広げる～縦と横のつながりを深めよう～」というテーマで行われた合宿はとてもありがたかったです。特に大きかったのは準備期間でできた他プロジェクトの人たちとのつながりです。また、活動報告会では他大学含めた様々なプロジェクトの活動や目指すものに触れられました。他大学の方とも連絡先を交換しました。教育学部一期生で先輩がいない自分にとってつながりを深め

られる貴重な場でした。来年もぜひ合宿を行って、更に多くの人につながりを広げて欲しいです。教育学部 学校教育学科 1年 土屋 詠介



合宿に行って学べたこと

今回の合同合宿では、地域の活動に取り組んでいる学生と交流ができ、充実した時間が過ごせました。私はミニたまゆりという活動の学生代表ですが、後輩への指導方法など慣れないことが多く、いつも悩んでいます。レクリエーションで、他大学の先輩方の動きを見て「どうすれば、自然に人を動かすことができるのか」を学べました。

また、各大学の活動報告では、私たちの活動の改善点を理解することができました。特に、各大学でボランティア学生が自発的に集まっているという所が私達の活動に無い所だと感じました。ミニたまゆりは1年生の必修活動として位置付けられています。このような仕組みが無くて、自発的に参加をする仕組みが必要だと感じました。

田園調布学園大学 人間福祉学部 社会福祉学科 2年 置田 あすか

信濃育英会「明るい社会に貢献する奨学生」団体表彰 あるぶすタウン



我々が1年間かけて創り上げている「あるぶすタウン」は、信濃育英会が主催する「第23回 明るい社会に貢献する奨学生」の団体の部で賞を頂くことができました。

あるぶすタウンはまだ開催数3回と歴史が浅く、組織の基盤を作りながらもイベントの開催に向けた準備も行うため、実行委員の我々は努力を続けてきました。その努力が奨学金受賞という形で外部から評価を頂けたことは、今後の活動の励みになりました。

毎年あるぶすタウンに参加してくれる子どもたちが「来年も楽しみ・参加したい」という感想を残してくれています。その期待に応えられるように、今後も我々実行委員は頑張っていきます。

総合経営学部 総合経営学科 4年 水野 佑紀

松本大学地域貢献大賞 同窓会長賞 あるぶすタウン



今回は初めて地域貢献大賞選考会に参加し、あるぶすタウンの活動に関するプレゼンテーションを行いました。私自身人前で発表することに慣れていなかったため、今回の参加をあまり重く受け止めていませんでした。しかし、リハーサルを通して段々とこのイベントに対する思いや責任が重くなっていきました。当日は、あるぶすタウン以外の団体も多く参加しており、プレゼンテーションの仕方、話し方など、どれをとっても素晴らしく感じる人ばかりでした。発表を聞きながら、自分たち以外の団体の方が地域の方々といかに繋がっているかを感じることができました。結果は同窓会長賞を頂き、貴重な経験をすることができました。

教育学部 学校教育学科 1年 宮澤 和可奈

松本大学地域貢献大賞 学生委員長賞 ええじゃん栄村



今回はええじゃん栄村2名が地域貢献大賞に参加しました。このプロジェクトの概要や今年度の活動、栄村との交流の様子をプレゼンテーションしました。

発表前はプレゼンの仕方やスライドの作り方などわからず、とても苦戦しましたが先生方やゆめのスタッフのみなさんにご指導をいただき無事発表を終えることができました。当日は栄村から社会福祉協議会の方にもお越しいただき、とても心強い応援になりました。今年度は、栄村に多く訪問することができ、私たちの活動の目的でもある交流をすることができました。

また、この地域貢献大賞への参加で改めて過去の先輩方の活動を振り返ったり、私たちの活動目的について、見直す良い機会になりました。他のプロジェクトからスライドの使い方や分かりやすい発表方法なども学べたので私も次に活かしたいと思いました。

人間健康学部 健康栄養学科 2年 雨宮 里穂

BBS会員としての実績に長野保護観察所から感謝状 松本BBS会



1年生のときから始め、4年生になるまでの4年間の自分の活動がこのような形で認めてもらったこと、感謝状を頂けたことをとても嬉しく思っています。活動を始めたきっかけは自分のためでしたが、今までの活動を思い返すと少年たちと交流していく中で気付かされること、学ぶことがとてもたくさんあり、今回の話を聞いた際には何故自分なのだろうとも思いましたが、周囲からは入った頃よりもしっかりしてきた、変わったと言って頂けたため自分自身が成長することができたように感じられました。これからもよりよい活動をしていくためにさらに励んでいきたいと思っています。

総合経営学部 総合経営学科 4年 小出 岬

こんな活動を
しています

学生プロジェクト



2017年 すすき川花火大会
写真・絵画コンテスト 表彰式



すすき川花火大会プロジェクト 写真・絵画コンテスト

こんにちは、すすき川花火大会プロジェクトです!

10月29日に2017年度の写真・絵画コンテストを実施することができました。写真部門、絵画部門ともに今年も多く作品が集まりました。10月4日に厳正な選考会を行い、各賞を決めました。当日は朝から富士電機の皆さんと会場セッティングをし、受賞者を迎えました。去年から司会進行を学生が務めており、今年は2年生が緊張しながらも円滑な司会進行をしてくれました。食事を楽しみながらの交流会では、地域の方も企業の方も交えて、すすき川花火大会について、松本についてなど、さまざまな会話が飛び交い盛り上がりました。とてもにぎやかな表彰式になり、受賞者の皆さんの笑顔を見ることができ、嬉しい思いでいっぱいでした。

総合経営学部 総合経営学科 3年 赤羽 祐香



「ゆめ」編集 新の里ウォークラリーに参加して

10月28日に新村地区で開催された「新の里ウォークラリー」に参加しました。天候が優れない中でしたが、最後まで楽しく歩くことができたのでよかったです。道中には新村地区にまつわる9つの問題が設置されており、チームで協力して問題を解きながら進んでいきました。地域の子どもからお年寄りまで幅広い年代が参加していたため、助け合いながら問題を解くことができ会話も弾みました。2時間ほど歩いてゴールの新村公民館にたどり着きました。ゴールの後は地区の方が作ってくださったカレーをみんなで食べました。運動した後にみんなで食べるカレーはとっても美味しかったです。来年もまた参加したいです。

教育学部 学校教育学科 1年 澤谷 茜里



キッズスポーツスクール

私たちキッズスポーツスクールは、子どもたちの発達・発育に合わせた様々なスポーツを通して、体を動かす楽しさを知ってもらうことを目的に、毎月第2土曜日に3~6歳の子どもたちを対象としたスポーツ教室を開催しています。「ボールで遊ぼう」「パラバールンで遊ぼう」など、毎回テーマに沿ったメニューを考え、運動遊びを提供します。11月には「新聞で遊ぼう」をテーマに、新聞紙を使ったゲームやボール遊び、洋服づくりなどを行いました。今回はとてもシンプルなメニューでしたが、子どもたちは楽しそうに遊んでいました。洋服づくりでは子どもたちが真剣な表情でデザインを考え、世界に一つだけのオリジナルな服を完成させ、とても嬉しそうにしていました。また、最初は緊張気味だった子どもたちも次第に学生と打ち解け、一緒に遊んだりおしゃべりしている姿も見られました。今後も地域との関わりを大切に、子どもたちが楽しく・安全に身体を動かすことのできる環境を提供していきたいと思っております。

人間健康学部 スポーツ健康学科 1年 南雲 彩香



キッズホッケー

キッズホッケーのホッケー教室でユニホックを始めて12月で1年が経った。12月8日と12日、大学の体育館で子供たちを招いて念願の試合を行うことができ、いつもの児童センターの体育館よりも何倍も大きなコートで思い切りボールを打ち、思い切り走り、いつも以上に子供たちに楽しんでもらえた。その中で子供たちの成長には、驚かされるばかりであった。チームごと自分たちで作戦を立て、どのチームも協力して一生懸命試合を行っていた。1年前は、振っても空振りや狙ったところに飛ばないレベルであったことと比べると、得点はたくさん入り、パスの正確さも格段に上がり、レベルの高い試合を行えた。

今後もメンバー一同で協力し、子供たちの成長に負けないよう、より安全で楽しく行えるように指導を行っていきたい。

人間健康学部 スポーツ健康学科 4年 小野 剛



こどもあそび隊

私たちこどもあそび隊は2ヶ月に1回、0歳から5歳のお子さんとお父さん、お母さん方を対象にしたこども広場という交流を行っています。11月は「運動会」をテーマに交流を行いました。まず子どもさんと学生が打ち解けあえるよう、手遊びを一緒にし、じゃんけん列車を全員で行いました!全員が1つの列車になりとても楽しかったです。そしてビンゴ形式の運動会を行いました。種目を書かれたビンゴ用紙をクリアすることで景品がもらえます。プログラムは「玉入れ」や「鈴タッチ」などの体を動かしたりする種目や、「お兄さんお姉さんとハイタッチ!」など学生とコミュニケーションがとれる種目を用意しました。

最後に子どもさんに好きなお絵描きをしてもらった金メダルと景品のバルーンアートをプレゼントしました。皆さんとても喜んでくれて私たち学生もとても嬉しかったです。

松商短期大学部 経営情報学科 2年 小林 美弥



松本BBS会

BBS (Big Brothers and Sisters Movement)はその名の通り、少年少女たちに同世代の兄や姉のような存在として、一緒に悩み、学び、楽しむボランティア活動です。

私たちのメインの活動である、「いろりばた集會」では、少年たちとの会話や、相談をとおして、これから社会に復帰する少年たちの不安や悩みを少しでも解消できるよう、心のケアをお手伝いしています。定期的に例会を行って、活動報告をしたりこれからの活動について話し合ったりもしています。いろりばた集會の他にも、スポーツ交流会や社会参加活動などで少年たちとの親睦を深めています。

12月にはクリスマス会を予定しており、当日に向けてレクリエーションの計画やクリスマスカードの作成を進めています。

参加者全員に楽しんでもらえるよう、準備から全力で取り組んでいます。

松商短期大学部 商学科 1年 三浦 綾夏



Sign 暗闇で伝えること

今年度のSignの活動として、4月と8月に行われたダーグネスレストランに参加しました。ダーグネスレストランとは、暗い部屋で食事をすることで視覚障がい者への理解を深めることを目的とした企画です。

今回私は、8月開催の実行委員として参加しました。メニューや当日の日程を話し合う中で「見えない大変さを伝えたい。そのうえで安全に楽しんで欲しい」という想いを感じました。

当日は、参加者と一緒に食事をしました。ピン入りの飲み物を注いだり、大皿から肉料理を取ったり普段やっていることがとても大変でした。しかし、それらを克服して楽しく美味しい食事ができ実行委員として伝えられたことが実現できていると感じました。

人間健康学部 スポーツ健康学科 2年 山本 真由香

学生プロジェクト ええじゃん栄村

こんな活動をしています



栄村収穫祭に参加して



ええじゃん栄村では10月、栄村で行われた栄村収穫祭に参加しました。収穫祭では、栄村の様々な団体の方がお店を出していたり、太鼓の発表があったり、もちつきが行われたりしてとても盛り上がっていました。私たちは、大学祭でも販売した栄村のトマトジュースを使った和風トマトスープの販売、「食の祭典」名物料理コンテストで最優秀賞に選ばれた「そばの実・煎」の商品

開発に向けた試食提供・アンケートを行いました。この活動を通して、栄村のたくさんの方々とコミュニケーションをとることができました。栄村の方は、みんなとても優しく、温かい人たちでした。交流を通して栄村について今までよりも知ることができたので、これからの活動に活かしていきたいです。

総合経営学部 総合経営学科 1年 二木 麻友



2017年10月28日 妻有新聞提供

住民の寄り添う地域福祉への取り組みを共に



「梓乃森祭」と栄村総合文化祭・収穫祭での「そばの実・煎」の試食や栄村産トマトジュースを用いたトマトスープの販売に、栄村村民協働メンバーとして参加させていただきました。

地域おこし協力隊として栄村に赴任し、今後の地域福祉の担い手となるべく活動している私にとって、栄村という地域の村民、その1人ひとりの想いに寄り添いながら日々活動を続けてくださっている「ええじゃん栄村」の皆さんには心より感謝するとともに、共感することが多く、充実した交流の場でした。

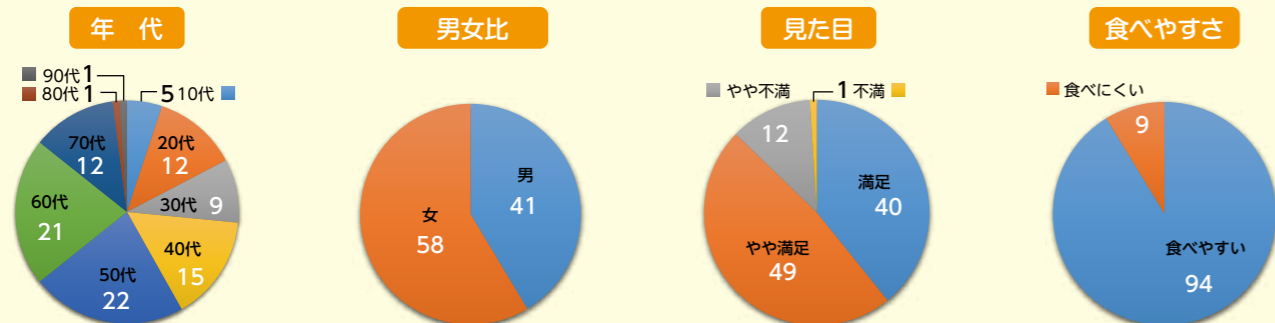
私も栄村社会福祉協議会の地域福祉事業などを通じて村民の方、あるいは支援の方にお会いすることで、それぞれの想いを知ることができ、栄村の振興のために必要なことについて日々新たな発見があります。そして、それは栄村のみならず日本全体の地域福祉に役立つと考えます。これからの地域福祉づくりに全力で取り組みたい方には、この栄村地域おこし協力隊への応募をお勧めします。

栄村社会福祉協議会 地域福祉サポーター（地域おこし協力隊）大塚 幸一



そばの実・煎を試食する森川村長

「そばの実・煎」試食アンケート 平成29年10月21日(土) 栄村収穫祭 回答数 110名



第51回 梓乃森祭では出会いや交流が生まれました

10月14日、15日に行われた梓乃森祭では5号館を中心に、ゆめひろばの開催と、活動紹介展示を行いました。普段からお世話になっている地域や団体、企業と協力して行ったイベントは大盛況。また模擬店を出したプロジェクトも完売しました。

ゆめひろば

・不用食器配布に参加して

梓乃森祭で不用食器配布に参加しました。まだ使える食器だけど、そのままゴミに出したら埋め立てられてしまうものを無料で配布しました。前日から食器を並べたり、当日は食器を包んだりしました。先生方や一緒に参加した先輩など食器に関する知識が豊富で、すごいと思うばかりでした。普段プラスチック製のものを使っているため、割れやすいものを買うつもりはなかったけど、この活動の中心になって取り組んでいる松本市波田地区消費者の会の方から、割ることで力加減を覚えるから勉強にもなると言われていたので勉強のため食器をいくつか買ってきました。お茶碗とマグカップはよく使っています。

総合経営学部 総合経営学科 2年 山岸 明日香

・2年間の梓乃森祭ボランティアを経験して

私はこの梓乃森祭で、昨年度に引き続き、新村地区の婦人グループ「マーブルの会」の方々と一緒に「おやすみ処」でちまみ寿司を販売しました。今年は、昨年よりも多くの方に来て頂いた事も、あっという間に完売したので、とても嬉しかったです。

また、「おやすみ処」という休憩スペースにも、沢山の方に来て頂き、お茶や漬物を提供しました。場所の関係上、席が少ないというデメリットはありましたが、喜んで頂いたので、良かったと思います。

私は今年度で卒業となるので、来年以降は「マーブルの会」の方々と一緒に活動する事は出来なくなってしまいます。ただ、この活動を通して、様々な経験が出来た事は、私の一生の宝物です。「マーブルの会」の皆様、本当にありがとうございました！

松本大学松商短期大学部 経営情報学科 2年 五味 尚也



新村地区 マーブルの会の皆さん

上記以外でご参加いただいた団体
出張販売・・・第2コムハウス、就労継続支援B型事業所「森のこびと」、食品ロスのパネル展示・・・松本市環境政策課

模擬店

・栄村のみなさんと販売した和風トマトスープ

私たちええじゃん栄村では、栄村のトマトジュースを使用した「和風トマトスープ」を梓乃森祭にて販売しました！ええじゃん栄村では実際に現地に赴いて栄村の現状を理解しどのような活動をしていけば栄村の過疎化などの問題を解決できるのかを考えていく取り組みをしています。そこで栄村を周知してもらおう事も含め栄村のトマトジュースを使用した和風トマトスープを販売するに至りました。1日目から売れ行きは好調で、2日目には見事に完売する事が出来てとても嬉しかったです！この経験を次の栄村の活動に活かしていきたいと思いをしました。



販売後に栄村役場・社会福祉協議会の方と懇談

・梓乃森祭の模擬店を経験して

私たち〇いただきます!!では皮まで丸ごと使用した、栄養たっぷり食品ロスにもつながる豚汁を販売しました。豚汁の具は豚肉、さつまいも、人参、長ネギ、こんにゃく、ごぼうです。去年の梓乃森祭時の資料の読み違いにより、2日間に200食販売で買ったはずの材料の予定が100食分しか用意できておらず2日分の材料を1日で使い切ってしまった。しかし、みんなの協力により1日目の販売終わりに買い出しに行き2日目の材料を調達することができ、無事終了することができました。おもわぬハプニングによりメンバーの団結力が強まったと思います。また、豚汁は大盛況で完売することができ、私たち〇いただきます!!にとってもお客さんにとっても、満足した活動にすることができ良かったです。

人間健康学部 健康栄養学科 2年 小口 菜菜



〇いただきます!! 豚汁販売

活動紹介展示



すずき川花火大会コンテスト 写真の部で入賞された方も来場



ブラレール 上高地線応援隊のみなさんに昨年に続いて親子で楽しめるコーナーをお願いしました

おいでよ!



「あるぷすタウン」は、子どもたちが街を運営し創り上げていく子どもだけの街であり、街の中での様々な体験から社会の仕組みを知ってもらおうという取り組みです。第4回あるぷすタウンの開催に向けて定例会を行い、今年はどうな街にしていきたいか実行委員会同士話し合いを重ねています。また各ブースの協力企業との打ち合わせも始まり、子どもたちに楽しんでもらえるように工夫を凝らしています!

現在、新実行委員15名が加わり、学生計30名で活動中のあるぷすタウンですが、まだまだ当日スタッフの募集を行っています。子どもが好きという方、少しでも活動に興味がある!という方は是非考房『ゆめ』に来てください!一緒にあるぷすタウンを創りましょう!

総合経営学部 総合経営学科 2年 降旗 あすか



第4回
あるぷすタウン

Q.あるぷすタウンって?
A.子ども達が街を運営し創り上げていく子どもだけの街

日 時: 2018年2月11日(日)・12日(月・祝)
(両日ともに10:00~16:00)

参加費: 1000円(地域通貨引き換え分)

参加対象: 小学4年生~中学生(2日間参加できる人)

会 場: 松本大学5号館 専

参加人数: 200名(抽選)

■主 催 松本大学 あるぷすタウン実行委員会



月刊イクジに学ぶ

12月7日、発刊20年の月刊イクジ(以下イクジ)の宮田編集長を講師に学習会を行いました。

私達『ゆめ』編集は来春に新入生と地域に向けて情報誌『volere!!』を発行予定です。一番大切なのは「誰に対して何を伝えたいのか」を重点にして、とりあげる情報を見極める事だとわかりました。イクジでは読者が欲しい情報は身近な物であるため、狭いエリア別の情報をきめ細かく掲載し、読者同士の口コミや投稿を紙面づくりに反映させて読者を広げております。『volere!!』を多くの人に読んで貰うために、とりあげる記事の対象を広げさえすれば良いという事ではないとわかりました。



総合経営学部 総合経営学科 1年 岡本 一沙

お問い合わせ、ご意見等は下記へご連絡ください。



松本大学 地域づくり考房『ゆめ』

〒390-1295 長野県松本市新村 2095-1

松本大学 7号館 2F

T E L : 0263-48-7213 (直通)

F A X : 0263-48-7216 (直通)

E-mail: community@matsu.u.ac.jp

U R L : <http://yume.matsumoto-u.ac.jp/>

※開館日時: 月~金 9:00~18:00